

製品名: FoxE1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11084**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	34kDa

抗原情報

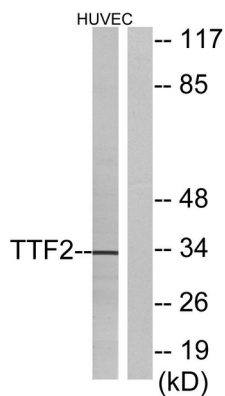
遺伝子名	FOXE1 FOXE1; FKHL15; FOXE2; TTF2; TTF2; Forkhead box protein E1; Forkhead box protein E2;
別名	Forkhead-related protein FKHL15; HFKH4; HNF-3/fork head-like protein 5; HFKL5; Thyroid transcription factor 2; TTF-2
遺伝子 ID	2304.0
SwissProt ID	O00358
免疫原	抗血清はヒト TTF2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

背景

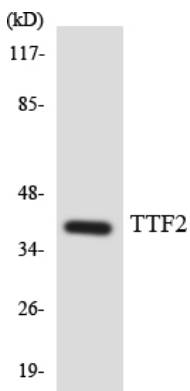
このイントロンを含まない遺伝子は、明確なフォークヘッドドメインを特徴とするフォークヘッド転写因子ファミリーに属します。この遺伝子は甲状腺転写因子として機能し、甲状腺の形態形成において重要な役割を果たすと考えられます。この遺伝子の変異は、先天性甲状腺機能低下症および甲状腺形成不全を伴う口蓋裂と関連しています。また、この遺伝子の遺伝子座位は、扁平上皮上皮腫および遺伝性感覚神経障害 I 型の候補遺伝子である可能性も示唆しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: FOXE1 遺伝子の欠陥は、甲状腺無形成症、口蓋裂、後鼻孔閉鎖症を伴うバンフォース・ラザルス症候群[MIM:241850]の原因です。、機能: 転写因子と考えられる。甲状腺器官形成に関与している可能性がある。、多型性: 12~19 残基のアラニン残基が認められる。この多型性は、甲状腺形成不全の他の症例、特に家族性症例における FOXE1 の役割を研究するためのマーカーとして用いることができる。、PTM: リン酸化されている。、配列注意: 複数の競合がある。、類似性: フォークヘッド DNA 結合ドメインを 1 つ含む。、組織特異性: 成人の脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、脾臓、心臓、結腸、小腸、精巣、胸腺で検出された。発現は心臓と脾臓で最も強かった。、

研究分野

画像データ



TTF2 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



TTF2 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。

FoxE1 ポリクローナル抗体を使用した HUVEC 細胞のウェスタン ブロット分析。

